

グローバル人はつらいよ！ーアフリカ編ー

第3章：ザンビア Part2

というわけで、私は今アフリカのザンビアという国にいます。東京オリンピックの年（もちろん前回の）に独立したこの国は、昨年独立50年を迎えました。そしてこの国に青年海外協力隊が初めて派遣されてから、45年がたちました。私がこの国に最初に到着してから23年がたちました。当時出会った、ザンビアで長年協力活動を支援しているアイルランド人が「この国が先進国と同じように発展するまで百年はかかるでしょう。」と言っていました。「その百年後のために、自分はここにいる。」とも。

ザンビアの首都ルサカに21年ぶりに戻ってきました。その首都の変貌ぶりがたるや…。

1) ショッピングモールがある！しかもいくつも。そこには南ア系のスーパーがあり、また宝飾品、衣類、電化製品、ファストフードなどのお店がずらり。大抵のものは何でも揃います。スーパーでは、ザンビアの人がカートいっぱい買い物をしていきます。そして支払いはカードです。買った品物は大量のレジ袋に入れてくれます。昔はお店に品物が置いていない、なんてことがざらにあり、砂糖と油を見つけたら買い占めるように、と先輩ボランティアに言われましたが。

2) 自家用車が大量に走っています。昔はお金持ちしか車は買えず、走っているのは高級車ばかりでしたが。今般の朝晩のラッシュはひどいもので、ふだん10分で移動できるところを1時間かけて出勤することがざらにあります。走っている車のほとんどが中古の日本車です。保管場所標章がそのまま貼ってあるのも多数あり、その車がどこから来たのか見るのも楽しみの一つです。それらの多くは10年から15年落ちのものです。懸念はこの国の車修理や廃車技術があまり高くないことです。故障車が路上にあり、渋滞の原因を作っていることもあります。日本は産業廃棄物を輸出してないでしょうか…。

3) 多くの家に衛星放送視聴用のパラボラがついています。南アの衛星放送で、サッカーの試合やアメリカ・インドのテレビドラマを楽しんでいます。昔は国営放送1局で首都でしか見られませんでした。黒板に手書きの天気図がテレビで見られたときは衝撃的でした。

4) 服装がおしゃれになっています。特に女性は色鮮やかな衣装です。髪型もかつらやつけ毛で毎週変えてくる凝りようです。昔はみなさんカリフラワーみたいでしたが…

5) みんな携帯を持っている。しかも複数持っています。みんなスマホ大好き！そしてフェイスブック大好き！！です…。もちろんボランティアも全員持っていますよ。安全確認も即座にできます。昔は直接家に行かないと、生存確認もままならず…。

しかし、首都から離れてみてわかりました。田舎の暮らしはそんなに変わって

いないこと。そして、持てる人と持てない人の差が広がっていること…。

身の回りで手に入るものは、わずかな野菜とちょっとした日用品。お気に入りの1枚のシャツを毎日洗濯して、きれいに身なりを整える。娯楽はなく、日がな一日近所の人とおしゃべりをする。しょっちゅう夕食に招いてくれる。親切で優しいザンビア人が住む田舎。



中学校での数学の授業

ここでも私はガーナ時代と同じような仕事をしています。まずはボランティア活動先の発掘。私は理科教育や職業訓練のボランティアを担当していますので、中高等学校や職業訓練校、教員養成校などを回ります。私がいた当時は理科の授業を受け持つボランティアが多かったのですが、今はコンピュータや体育の授業を受け持つボランティアが多いです。これは供給側の日本の状況も影響しているのですが、近年ザンビアは情報教育の科目を必修とし、コンピュータを学ぶ環境を整えています。

しかしまだ講師となれる人が大変少ない状況です。

自分がボランティアをしていた頃、他のボランティアが活動していた学校にも行きました。聞いてみると名前を憶えている人もいて、その瞬間とてもうれしくなります。残念ながら、持てない人の生活環境は、20年前とほとんど変わっていない気がします。しかし自分たちの身の回りにいた日本人ボランティアの名前を憶えている人がいて、日本人から学んだ人が今子どもたちの指導をしている、そんな風景が百年後の発展を予感させる、そんな気がしてきました。



中学校でのコンピュータの授業



小学校での体育の授業

ところで前述のアイルランド人に会いました。彼は別の地域で職業訓練校を運営していました。相変わらず元気な人でした。多くの人の情熱が途上国の発展を支えています。ここに住む子どもたちが、健康で健やかに育つよう、教育を受け自分の夢をかなえるための知識を身につけられるよう、自分のお気に入りの服を買うためのお金が手に入るよう、私たちがお手伝いできることは、まだあるようです。

海外で働いてみたいあなたへ

「グローバル人はつらいよ」というタイトルで書き始めました。この頃言われる「グローバル化」のイメージ先行的なところに大きな違和感を覚え、そんなタイトルで書き始めました。

外国出身の人や海外で働いた経験を持つ人を部下にもつあなた、グローバル人は我が強くわがままで何事にも一生懸命な人ではないでしょうか。海外で働いてみたいあなた、海外での仕事は、思い通りには進まず、ネゴシエーションと忍耐の毎日です。

自分が一歩引き、周りを見る意識を持つところから、グローバル化が始まると思います。

みなさんの挑戦をお待ちしています。